

12年度 決算を認定

賛成討論

厳しい財政状況の中、投資的経費が大幅に増加し、経常収支比率、公債費比率ともに改善の方向にあることや、北関東産官学研究会、北関東アクセス道路、第4次総合計画、桐生川の清流を守る条例等、明日の桐生のための事業がことごとく実行されており、その取り組みは評価できる。よって、賛成する。

反対討論

医療改悪の阻止、消費税の減税、30人以下学級実現と教職員増員等について、対政府要求を桐生市独自で行う姿勢がない。住宅は人口問題の基本であるが、公営住宅の整備等の施策が十分ではない。事業所・事業者の大幅な減少や税金を払えない市民の急増についての施策が必要である。よって、反対する。

平成十二年度の 財政状況は

【答弁】 前年度と比較して経常収支比率は三・五ポイント改善され、公債費比率も〇・七ポイント改善されているが、財政力指数は〇・四二低下している。財政力をつけるには、市税収入の確保が重要であるため、産業基盤の整備等を図りながら、財政力指数の改善に

平成12年度桐生市歳入歳出決算及び桐生市水道事業会計決算を、それぞれ賛成多数で認定しました。

同決算の認定にあたっては、監査委員による監査報告の後、各会派代表の議員(5人)が総括質疑を行うとともに、決算特別委員会(委員12人で構成)を設置し、2日間にわたり、慎重に審査を行いました。

総括質疑における、主な質疑に対する市当局の答弁は次のとおりです。

市町村合併の 取り組みは

【答弁】 八月二十日には、「市町村合併調査研究委員会」を庁内で組織し、八月二十三日には、広域圏市町村の広域担当課長を委員とした「桐生広域合併調査研究会」を組織し、行政の現状を把握すべく、調査を開

向けて長期的に努力していきたい。

中通り大橋線の 進捗状況は

【答弁】 左岸側の用地補償ベースの進捗率は、平成十二年度末で約七十八パーセントとなり、本年度中には約九十九パーセントになる見込みである。右岸側については、国の内示が得られ、現在、事業認可を取得すべく事務手続きを行っている。

始めている。なお、合併の方向性の選択では、住民の意向を最大限に尊重しなければならぬと考えている。

地域イントラネット 基盤整備事業は

【答弁】 施設予約システム・相談窓口システム・テレビ会議システムが稼働を始めており、今後、施設予約

傍聴席から



曾我部 敦さん

凛とした議長長の「一般質問を続行いたします」の声が議場に響き渡り、桐生市議会第3回定例会の一般質問が再開されました。質問は市の財政・総務・建設・都市計画・教育・環境・医療福祉・産業振興・国際施策等、現代社会の抱えるあらゆる問題が話し合われていました。これは今、小中学生が身近な自分たちの課題として新たに取り組んでいる総合的な学習の時間の内容そのものです。

子供たちは、「私たちが住むまち桐生が好きな子」に育ってきています。がんばれ桐生市。

私たちが、桐生の子供たちのために努力しなければと強く感じました。

の対象施設の拡張や、市役所側の相談窓口の追加等さらにシステムを充実させていきたい。



相談窓口システム

医療事務組合 議員選挙

桐生市外六箇町村医療事務組合議会議員について、選出の依頼にもとづき、次のとおり選出しました。

山口 時次氏

桐生市外六箇町村
医療事務組合議会議員